

【国語】

基礎学力検査では、文字どおり国語の基本的な学力を検査する。第一に、漢字の読み・書き取り・慣用句・四字熟語といった語句レベルでの基礎的な知識の有無を問う。このうち漢字に関しては常用漢字の範囲に絞る。また四字熟語に関しては、日常的によく使われる常識レベルのものに絞って出題する。第二に、文章の読解力を問う。本文は入試問題として標準レベルのもの、すなわち一読すれば全体を把握できるような、表現・内容ともに理解しやすいものを出題する。二回、三回と読み返さなければ論旨の展開や全体の主旨を把握できないようなものは出題しない。文章は長短三種類とし、分野・テーマが重ならないように配慮している。また設問は、本文の内容との合致(第1問)、空欄補充、欠文補充(第2問)、文整序(第3問)に限って出題する。これらは文脈の基本的な把握および本文全体の内容把握を問うものである。傍線部を設けてその箇所の内容や理由などを問う類の設問は出題しない。このような設問はある程度の深い読みを必要とするため、全体の大まかな内容把握の妨げになりかねないからである。

古文を出題する場合は、平易で短い文章を選ぶとともに、設問に支障が出ない限り現代語訳を付す。設問は語意・現代語訳・内容把握などで構成するが、いずれも古文の基本的な知識があれば十分に解くことができる程度のものである。ただし、古文の出題は本年度限りとする。

【英語】

基礎学力検査は、これまで授業で学んできた英語が、単なる暗記ではなく、実際に使いこなせる力として身に付いているかを確認するためのものである。

文法問題(第1問・第3問)では、文の構文や内容を正しく理解したうえで適切な語句を選ぶことができるかを重視している。特に整序問題では、与えられた単語をどの位置に置けばどのような役割を果たすのかを考えさせることによって、文の構造を見抜く力を試している。単に並べるのではなく、なぜその語順になるのかという根拠を理解していなければならない。

第2問の会話文では、日常生活における諸場面を想定し、その場の状況を素早く把握して会話する力を求めている。また第4問の長文読解では、環境問題や歴史、メディアといったさまざまなジャンルからテーマを選んでいる。未知の単語に遭遇しても前後の文脈から意味を推測し、文章の全体像を正確に把握できるかという能力を問うものである。

英語の基礎学力は、外国語としての英語を正しく読み、正しく書き、正しく話すために必要な「土台」である。この土台が揺らげば、いかなる知識も積み上がらない。無理に難問を解くことよりも、まず揺るぎない土台が築かれているかどうかを重視している。本検査を通して、受験生の英語に対する基礎力の確かさを見極めようとするものである。